

安心して暮らせる地域に

介護の日にケアネットが公開講座



「右」「左」を即座に判断して手を上げる
反射神経テストを体験する参加者

介護事業サービスを提供するケアネット長野サービスセンター(須坂市高梨町・佐藤貴幸センター長)は11日、須坂市の日野地域公民館別館で、介護の日イベント「地域公開講座」を開いた。誰もが住み慣れた地域で暮らし続けられる社会を目指して認知症サポーター養成講座を実施。

併せて、身体機能の低下による転倒などを防ぐためのポイントを実践形式でアドバイスした。市内外の約30人が参加した。

認知症サポーター養成講座では、ケアマネージャーでキャラバンメイクトの都筑章子さん、轟グループホーム

の管理者吉村秀夫さんが、認知症の人や家族を支えるために必要な知識を紹介した。

身体機能については理学療法士が指導した。病気が加齢などで視力減弱、反射神経の機能減弱、筋力低下、認知機能低下といったさまざまな身体能力の低下が起こりえる。そのため、とっさの判断や行動ができず、事故やけがにつながってしまう危険性があることから、普段から頭や身体を動かす重要性を共有した。

参加者は実際に握力測定のほか、ふいに落下する筒をつかんだり、スクリーンに映し出される「右」「左」

2023年度 須坂市中学生平和学習感想文⑦

広島平和学習に参加して

東中学校3年 中澤 空夢



僕は、今回の広島市の平和学習でたくさんのお話を聞いた。その中で心に残ったことがある。

まず、被爆体験をされた切明千枝子さんのお話を聞いた。幸いにも、建物の陰にいたので火傷(やけど)は免れ、頭や首筋、手指などにガラスの破片が刺さった

とだと感じるようになった。誰か後世に伝えておかないと、倒壊した建物の柱などによる打撲傷のみで助か

記念資料館では、被爆された方の写真や、当時の所有物など被爆の惨状を示す資料が展示されていた。これらの資料を見て、自分の家族や友人がこのようになってしまったら...と考えると恐ろしくなり、体が震えた。平和記念式典では黙とうを行ったり、献花を行ったりした。いつもはテ

地域の教育向上考える

24日に保護者・地域住民・教職員のつどい

民主教育をすすめる須高地区協議会は、24日午後6時から須坂商工会館3階大ホールで「第45回ゆきごとい」の教育をすすめる保護者・地域住民・教職員のつどいを開く。

集会テーマは「子どものころに耳を傾ける」。講師は信州大学教育学部准教授の茅野理恵さん。専門は学校心理学。入場無料。駐車場は市役所庁舎前、第2・3駐車場。乗り合せて来場を。主催は県教組上高井支部、連合長野高水地協須高地区連合会、須高地区労組協議、須坂市職員労働組合、須坂市勤労者協議会、部落解放同盟須高地区協議会。

の文字・イラストに反した。高山村本松の文字・イラストに反して手を上げる反射の中村篤司さん(40)が、認知症の人や家族を支えるために必要な知識を紹介した。

須坂市塩川町の男性(72)は「認知症サポーター講座は復習を兼ねて2回目の受講。頭感している」と話しての体操の大切さも痛感した。

松代藩主真田家⑧ 「松代初代藩主

初代信之の側室の1人は玉川伊豫守娘、右京の局。信之の死後は京都の尼寺で剃髪し、魚鑑親世音菩薩を信心しながら信之の菩提を弔い、寛文11(1671)年12月に逝去した。松代の曹洞宗梅翁院には西面した覆屋内に右京の等塔婆が建つ。

塔身正面「寛文十一年亥季・梅翁院殿正寛妙貞大姉・霜月五日寂一」

2人めは初代お通。お通は秀吉に仕え、天正15(1587)年、昌幸と信之が秀吉に謁見する際に出会ったという。千姫の大坂城脱出に尽力し、2代将軍秀忠の臣でもあり女流歌人でもある。元和8(1622)年、信之は上田から松代へ国替の際、お通母娘に松代へ来るように書を送っている。娘の2代お通も2代信政の側室である。

お通母娘の墓所は練馬区の臨濟宗大徳寺派の広徳寺と、松代の乾徳寺にある。2寺は、信政と2代お通の間に生まれた長男、信就家の江戸と領国の菩提寺である。信就の七男信弘は後に松代4代

藩主堀家他 華族の墓所概要

《第26回》 山岸 信之

は全17基の信就夫妻のお通母娘の4代藩主彦婆など、土代道泰(生立して一面「禅機」居士・祥寿大姉)乙亥十一日真田勘解由(十二歳)甲申十月卯解由信就(歳)お通母院殿圓室院殿天室「寛永八年卒・初代小宝七」己未在卒・二代松成三年十月真田道泰信之と信山田信茂の